

B—25 合繊の洗淨による劣化について (V)

高知大教育 西村 久子
○吉川 せつ

1. 従来合成繊維の整理過程でおこる劣化を研究してきたが、今回は主として織物表面の色相の変化と染料の着色性について検討した。前報でアセテート織物の各種漂白剤による漂白処理布の直接染料による着色性がそれぞれ異なることに着目したが、このことがアセテートの繊維構造の変化と何らかの関係があるのではないかと考えた。この方法を応用して劣化の程度を示す一つの指標にすることができるか否か検討することを目的とした。

2. 試料はナイロンとアセテート100%の白色平織物とし、精練、漂白、薬品および紫外線照射処理布を作りこれを原布に染着しない染料で染色し、分光色彩計にかけてその着色性の変化を比較した。

3. アセテートでは種々の処理条件のうち漂白と紫外線照射処理で白色度がかなり低下し、直接染料による染色性にも差が明らかであって、劣化機構との関連を考察する手がかりが得られた。ナイロンはアセテートほど顕著でなかった。